

平和と
ジユゴン
を守る
コンサート

NO BASE @ HENOKO
APPEAL CONCERT IN NAGOYA
Since 2015

NO BASE @ HENOKO
APPEAL CONCERT
IN NAGOYA vol.38

第38回 辺野古新基地 反対コンサート in名古屋 2025

【出演】

- 11:05 アフガンブルー
屋台の珈琲
歌のおじいさん
- 12:05 これがおわりのホレホレバンド
HIDE1960元旦
ISAMU
- 13:05 清水 美代子
宇野バンド
SM倶楽部 と和(な)
- 14:05 大城 節子
裏猫キャバレー
@ilis (アイリッシュ)
- 15:05 おきなーズ
うな武
工藤 秀樹
- 16:05 Kick & Yuko
(島キクジロウと中野裕子)
KEEP TO THE LEFT
高橋 よしあき
- 17:05 古川 斉
LOVE & PEACE + SHARE

4/29 (TUE)

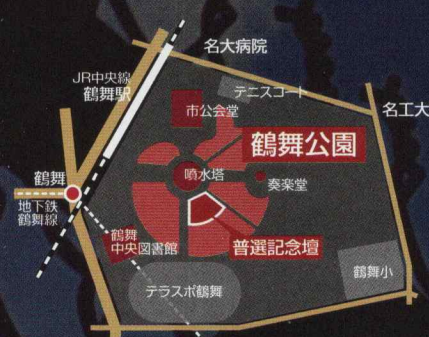
@ 鶴舞公園 普選記念壇

11:00 ~

観覧無料

※小雨決行

大雨(暴風雨など)の場合は中止。
※当日の朝までにウェブサイトでのご案内します。



沖縄県民の民意を無視し、希少なサンゴとジュゴンの海を破壊して、
辺野古に新しい基地が作られようとしています。
また、高江でもやんばるの森を潰し、住民生活を脅かすヘリパッド建設が強行されました。
これは、名古屋を中心に活動するミュージシャンたちが、
『ここから、今こそ、一人ひとりが反対の声を挙げよう』と呼びかけるコンサートです。

■主催：「辺野古新基地反対コンサートin名古屋」実行委員会

実行委員長：浅野義高 事務局：神戸郁夫

実行委員：加藤結姫・杉山道子・知念和子・筒井佳子・中島清志・保母則之・山口耕平

■問い合わせ：神戸郁夫 E-mail: kanbe@pop02.odn.ne.jp

ウェブサイト(ブログ)：http://henocon.blog.fc2.com / Facebookページ：『名古屋辺野古』



『南西シフト』～琉球弧の自衛隊配備

『また戦雲(いくさふむ)が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない』
～沖縄を再び戦場にさせない!!

今、南西諸島(琉球弧)では、次々に着々と自衛隊配備が進められている。

2022年末、政府は何ら国会での議論や承認を得ることなく『安保三文書』を閣議決定し、憲法の理想から逸脱した防衛政策の大転換を行った。そして実体のない『台湾有事』が叫ばれ、首相経験者の与党幹部が『戦う覚悟』が必要と妄言を吐き、さらに新首相は『アジア版NATO』構築などと囁く。

地域活性化や災害や医療への緊急対応などの、島民の『期待』とは裏腹に、丁寧に十分な説明もないまま基地機能は『変化』し『強化』され、住民の不安は広がり、地域の軋轢、分断が進んでいく。

『日米地位協定』により米軍は自衛隊基地を自由に使い、自衛隊もまた『共同/合同』の名の下に…。

かつて沖縄戦において軍隊は住民を守らなかった。

自衛隊も『有事』の際に住民保護の余裕はない、と明言している。

琉球弧の美しい島々とそこに暮らす人々を守らねばならない、沖縄を二度と戦場にしてはならない!

陸上自衛隊 与那国駐屯地
2016年3月開設
日本最西端の(台湾に最も近い)駐屯地。
沿岸監視隊を配備し、情報収集。
2022年11月、日米合同演習(キーンソード)では住民の反対を押し切り『16式機動戦闘車』が初めて公道を走った。
また敵ミサイル攻撃を想定した初の『住民避難訓練』も行われた。
2023年1月にはミサイル部隊配備が決定。

与那国島

陸上自衛隊 石垣駐屯地
2023年3月開設
『12式地对艦誘導弾』(ミサイル)を配備。
2018年、自衛隊配備の賛否を問う『住民投票』を求め住民の4割にあたる1万4千筆の署名が集まるも市議会が否決。
翌年、実施を求めて提訴するも最高裁で敗訴。
2019年3月の着工の際、環境アセスメントは実施されておらず、駐屯地周辺は島の水源地となっており、影響が心配される。

石垣島

陸上自衛隊 宮古駐屯地
2019年3月開設
2019年10月保良訓練場(弾薬庫)着工。
2020年、ミサイル部隊発足。
2021年4月保良訓練場開設、11月ミサイル搬入。弾薬庫は住民の集落からわずか200mしか離れていない。
島の水源は全て地下水であり、汚染の心配など不安が広がっている。

宮古島

なぜ辺野古や高江の米軍基地建設に反対するのか?

世界中で戦争するアメリカの軍事基地は、戦争の拠点であり(そもそも)『作ってはいけない』。

沖縄に今ある米軍基地は『銃剣とブルドーザー』で強制的に作られたもの。

沖縄からすすんで基地を提供したことなど一度もない。

普天間の移設先というが、奪った土地を返すのに、なぜ沖縄の別の土地を差し出す必要があるのか。

『やんばるの森』や『大浦湾のサンゴ』など、世界的にも貴重な自然を壊してはいけない。

選挙で何度も反対の意思を示しているのに、それを無視しての一方向的な強行はあまりにも理不尽。

機動隊や裁判所(高江のスラップ裁判、山城博治氏への不当判決など)の蛮行を許せば、沖縄だけでなく

今後全国で『国のやりたい放題』になってしまう。

このような政府を選んだのは、本土の私たちでありその責任は大きい。

中縄のたたかいに想いを寄せ、共に『うたう』

沖縄の基地の問題は日本全体、本土の私たちの問題であり、他人事ではありません。

沖縄の今は、本土の明日です。

沖縄の闘いは『非暴力・不服従・直接行動』です。

特に『直接行動』が他の運動とは違うところで、沖縄では米軍の占領時代から『座り込み』で闘ってきました。

座り込みや集会には必ず歌があり、音楽や踊りがあります。

3月4日は『サンシンの日』で、ゲート前で大勢で三線を弾きます。

photo by Jiro Iha

NO BASE! NO WAR!
勝つ方法は、あきらめないこと!

航空自衛隊 馬毛島基地(仮称)
2023年1月着工
米軍艦載機の陸上離着陸訓練(FCLP)用の滑走路を整備。自衛隊の水陸両用作戦の訓練や、補給機能を備えた重要拠点となる。
6000人の作業員を投入し、急ピッチで建設が進み、工事費も当初より倍増。
島周辺は優良な漁場であり、絶滅の恐れのある『マゲジカ』が生息するなど、環境への影響が懸念されている。



奄美大島 陸上自衛隊 奄美駐屯地/瀬戸内分屯地
2019年3月開設
地对艦および地对空ミサイル部隊配備。
電子戦部隊、射撃場、地下トンネルを含む大規模弾薬庫など。



北大東島 航空自衛隊
移動式『警戒管制レーダー』配備計画
2023年7月に住民説明会

うるま市 陸上自衛隊 勝連駐屯地
2024年3月
『第7地对艦ミサイル連隊』本部を新編



大浦湾の地盤改良工事を着工強行!
『敷き砂』に続き、『砂くい』の打ち込みへ
昨年1月の『海上ヤード』建設、『A護岸』建設のための『杭打ち』作業に続き、12月末には軟弱地盤改良工事の前提となる『敷き砂』に着手し、そして今年1月末いよいよ『砂くい』の打ち込み作業を強行、背の高い作業船がいくつも大浦湾に集結している。しかし工事は思惑通りには進んでいないのが現状であり、貴重な大浦湾の豊かな自然が壊滅的打撃を受ける前に何としても止めねばならない。

『米軍廃棄物』残留問題の解決なくして自然保護などあり得ない!!



『世界遺産』登録地に残る不発弾(空砲、実弾、照明弾等)と放射性物質コバルト60使用電子部品(2021年6月12日18時/北部訓練場返還地FBJヘリパッド跡/撮影:宮城秋7)